

放課後等デイサービス LIFE STAND UP 保護者向け評価表 集計結果（令和7年度）

回答者数：21名 集計期間：令和7年3月24日まで 対象人数（保護者）：30名 回収率：70%

カテゴリ	No.	チェック項目	はい (名)	どちらとも いえない(名)	いいえ (名)	無回答 (名)	有効 回答数	はい (%)	どちらとも (%)	いいえ (%)
環境・体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか	18	3	0	0	21	85.7%	14.3%	0.0%
	②	職員の配置数は適切であると思いますか	18	3	0	0	21	85.7%	14.3%	0.0%
	③	生活空間は構造化・バリアフリーへの配慮が適切になされていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	④	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっていると思いますか	19	2	0	0	21	90.5%	9.5%	0.0%
適切な支援の提供	⑤	こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは支援内容と合っていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑦	こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で放課後等デイサービス計画が作成されていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑧	放課後等デイサービス計画には支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定されていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか	21	0	0	0	21	100.0%	0.0%	0.0%
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会がありますか	10	7	3	1	21	47.6%	33.3%	14.3%
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に運営規程・支援プログラム・利用者負担等について丁寧な説明がありましたか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明がなされましたか	19	0	1	1	21	90.5%	0.0%	4.8%
	⑭	事業所では家族に対して家族支援プログラムや研修会や情報提供の機会等が行われていますか	15	3	2	1	21	71.4%	14.3%	9.5%
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合いこどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	⑯	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	⑱	保護者同士の交流の機会やきょうだい同士の交流の機会が設けられるなど家族への支援がされていますか	7	8	5	1	21	33.3%	38.1%	23.8%
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて対応の体制が整備され迅速かつ適切に対応されていますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	⑳	こどもや保護者との意思の疏通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で活動概要や行事予定等の情報を発信されていますか	20	0	0	1	21	95.2%	0.0%	0.0%
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか	19	1	0	1	21	90.5%	4.8%	0.0%
非常時等の対応	㉓	事業所では事故防止マニュアル等が策定され保護者に周知・説明されていますか	16	4	0	1	21	76.2%	19.0%	0.0%
	㉔	事業所では非常災害の発生に備え定期的に避難・救出その他必要な訓練が行われていますか	15	5	0	1	21	71.4%	23.8%	0.0%
	㉕	事業所より子どもの安全を確保するための計画について周知される等安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか	19	1	1	0	21	90.5%	4.8%	4.8%
	㉖	事故等が発生した際に事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか	20	1	0	0	21	95.2%	4.8%	0.0%
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか	20	1	0	0	21	95.2%	4.8%	0.0%
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか	20	1	0	0	21	95.2%	4.8%	0.0%
	㉙	事業所の支援に満足していますか	20	1	0	0	21	95.2%	4.8%	0.0%

自由記述コメント一覧		
No.	チェック項目	コメント内容
①	スペース	移転などでもう少しスペースがあるといいな。スペースはもう少し広くてもいいかなと思います。
③	バリアフリー	視覚で分かりやすくカードを使って行動をサポートしていただけていると思います。
④	空間の清潔さ	畳も取り除くのですが、床の状態が気になります。リフォームが必要かもしれない。
⑤	専門的支援	学校での出来事も相談に来てもらえる。
⑦	個別支援計画	念入りにモニタリングをして頂き、目標を決めてもらえる。
⑩	プログラム	特に長期休み中のプログラムを楽しみにしています。
⑪	地域交流	この頃は他の知らない子たちとの交流ができるか不安です。
⑪	地域交流	不明
⑪	地域交流	わからない
⑭	家族支援	個別相談には乗ってもらっています（ありがたいです）。
⑭	家族支援	機会はありませんが、担任の先生方のサポートがあって安心して預けられています。
⑮	状況共有	HUGでその日の報告を知れるのが嬉しい。
⑱	保護者・きょうだい支援	保護者の交流は、仕事をしている保護者もいるので元がないかと...
㉔	意思疎通	新しいスタッフにもっと意思疎通ができると Good。
㉕	情報発信	インスタは見てためにしています。
㉕	情報発信	毎月のおたより、カラフルで子どもたちの様子が分かって楽しいです。
㉗	マニュアル	わからない
㉘	避難訓練	わからない
⑲	相談対応	対面でもLINEでも相談に乗ってもらえるのが有難い。
⑬	計画説明	計画立案の際の面談日等と思いはない。
	全体	いつもありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日： R8 年 3 月 31 日				
LIFE STAND UP						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	1	人員体制を維持し、外国人スタッフ・看護職など多様な人材を配置。	スポット派遣に直前キャンセル等の不安定さがあり、固定的なヘルプ要員確保を中期課題とする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	訓練室マットを更新し、クッション性と衛生面を向上。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	パート職員含め、子どもとのやり取りを職員間で共有する文化を醸成。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2	OJTを中心に、法人内勉強会・外部研修への参加機会を確保。	体系的なOFF-JT研修（虐待防止・発達支援等）の機会拡充。年間研修計画の策定を進めている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	支援終了後の振り返りは全職員参加で実施し、翌日への申し送りを徹底。	朝のMTGが流動的なため、朝礼の定例化により情報共有と役割分担の精度を高める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		学校・相談支援との連携が中心で、放課後児童クラブや地域児童との交流は限定的。地域に開かれた事業所として今後の課題と認識。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	紙での月次通信・Instagramを併用した多層的な発信を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		家族支援の一環として、保護者向け研修・情報提供の体系化を進めている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		家族支援の一環として、保護者向け研修・情報提供の体系化を進めている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2		個人情報保護と安全確保の観点から慎重な検討が必要だが、施設の存在を地域に知ってもらう機会創出を検討中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	事故防止・緊急時・感染症対応マニュアルを整備し職員に周知。	防犯訓練等の実施頻度向上と訓練記録の体系化を進めている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LIFE STAND UP			
○保護者評価実施期間	R 8 年 2 月 2 0 日		～	R 8 年 3 月 2 4 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30世帯	(回答者数)	21世帯
○従業者評価実施期間	R 8 年 3 月 1 日		～	R 8 年 3 月 3 0 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名 ※在籍3か月以上の者	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	R 8 年 3 月 3 1 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	英語療育を軸とした専門性のある支援プログラム	外国人スタッフと日本人スタッフが協働し、子どもの発達段階・年齢に応じた英語療育プログラムを提供している。保護者評価でも関連項目の全てで100%の「はい」回答となっている。保護者自由記述でも「長期休み中のプログラムを楽しみにしている」との声が寄せられている。	クラス間連携の強化と、検定の合格実績等の成果可視化により、子ども達のやる気と自己肯定感を更に高めていきたい。
2	保護者側との様々な形で情報共有と相談対応体制	日々の活動報告、月次の通信発行、Instagramでの日常発信という3つのチャネルで、保護者への情報発信を多層化している。相談対応も対面・LINE双方で随時応じる体制を整えている。保護者自由記述でも「HUGでその日の報告を知れるのが嬉しい」「対面でもLINEでも相談に乗ってもらえるのが有難い」「インスタを見て楽しんでいる」	HUG・通信・SNSの発信内容を相互補完的に設計し、保護者ニーズに応じた情報整理を継続する。
3	個別支援計画の精度と本人・家族の意向尊重	児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で個別支援計画を策定し、本人・家族の意向確認、計画提示・同意取得を丁寧に行っている。保護者評価でもニーズ分析と計画作成・支援項目の設定が100%の「はい」回答となっている。	モニタリング結果を本人・家族へ分かりやすく還元する仕組みを強化し、共通理解をさらに深める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他児童・地域住民との交流機会の不足	職員自己評価では約半数が課題認識を持っている。また保護者側の自由記述でも「他の知らない子たちとの交流があれば」との声があった。要因としては、個人情報保護と子どもの安全確保を優先する運営方針、英語プログラム等の事業所内活動が中心となっていることが挙げられる。	今後は地域の自立支援協議会やボランティア団体、他事業所との連携を活用し交流機会の創出を検討していく。
2	保護者同士・きょうだい同士の交流支援の不足	職員自己評価で6割超が機会不足を認識している。保護者側の自由記述では「仕事をしている保護者もいるので機会がない」との声があり、要因として共働き世帯への配慮不足、開催形式の単一性が挙げられる。	オンライン併用や開催時間帯の工夫により、共働き世帯も参加しやすい交流機会を設計する。
3			